

進路便り

3年生 第7号 2015年10月16日
三重県立津西高等学校 進路指導部



中間考査が終わり、怒涛のごとく続く模試も全員受験は残すところあと2つ。今、大学は学園祭のシーズンです。来年の今頃は自分もそこで盛り上がっている姿をイメージしてもうひと頑張り！



出願大学を決めよう！

今まで国公立大学しか考えてこなかった人も多いでしょう。今回は私立大学も視野に入れて本格的に出願大学を考えていきましょう。

出願大学を決めるときの大原則

- * 入学後をイメージして「ここで学びたい」と思う大学を選ぶ
- * 心技体とも最高の状態で受験に臨めるよう「校数・日程」を最適化する
- * 入試科目・難易度・学力を照らし合わせて合格可能性を判断する
- * さまざまな入試方法・制度のメリットを理解して最適な受験方法をさがす

☆国公立大学への出願

◎出願できる大学は前期・中期・後期のそれぞれ1つずつと、別日程の国際教養大学・新潟県立大学。すべて出願は2月3日までにいきます。

(来春より公立大学になる福知山公立と市立山口東京理科の入試は別扱い)

◎入試日は前期2月25日、中期3月8日ごろ、後期3月12日が一般的。

◎前期の合格発表は3月10日までに行われます。可否に関係なく中期・後期の受験は可能ですが、前期の入学手続き(3月15日ごろまで)をすると中期・後期の可否は判定されません。

☆私立大学への出願

(1) 私立大学を受験する理由

- * 第一志望校が私立大学の場合
- * 国公立大学の滑り止め

「浪人」できない人はもちろん、自信を持って本命に臨むためにも一つは合格しておきましょう。(ただし、気が緩んでは逆効果)

* 国公立大学のための練習

センター試験から二次試験までの一か月は模試がないのでどれくらい勉強が進んでいるかわかりません。試験に対するカンも鈍ります。何より知らない人ばかりの中で緊張して受験するための練習としても私立大学を受験することをお勧めします。

私立併願校選びのポイント

- ☆「チャレンジ校」「実力相応校」「安全校」の3校程度受験することが多い。
- ☆日程的に「安全校」から受け始め、最後に「チャレンジ校」となるのが理想的。
- ☆1つの大学を何回か受験すると問題になれるので合格の確立が上がる。特に中部地区・関西地区の大学は学部による問題傾向の差異が小さいので学部横断的に受験するのも効果的。
- ☆連続は2日が限度。3日以上受験が続くのは避けた方がベター。
- ☆地方会場を利用する。津や四日市で受験できる大学もある。
- ☆センター利用やセンター併用をうまく活用する。特にセンター併用は利用価値が高い。センター前に出願する大学とセンター後に出願する大学があるので注意。

受験費用について

1回35000円が標準。センター利用は半額、ネット出願は5000円引き、学部併願は10000円プラスでOK、高得点利用も10000円プラスでOKなどさまざまな料金設定があるので、よく考えて出願しましょう。

手続締切日に注意！

意外と気がつかないのがこの手続締切日。合格しても期日までに入学金20万↑を支払わないと入学の権利を失います。国公立等へ合格すると無駄になる費用ですので、1校で済むように日程を考えましょう。

私立大学を特にすすめるわけではありませんが・・・

こんなものもあります！「入学前予約型給付奨学生」

数年前から東京の私立大学で始まった制度ですが、来年度からは関西大学でも実施されます。一般入試・センター入試の出願前に採用内定が決定する返還義務のない給付奨学金制度で、毎年40万～60万給付されますから国公立大学と同じくらいの費用に抑えることができます。秋の段階で申請し、選考の結果と入試の可否とは無関係で、他大学へ進学しても何ら問題ありません。推薦入試では利用できない制度ですので、一般入試まで頑張ったからこそ認められるチャンスです。保護者ともよく相談してみましょう。

願書について

センター試験の願書を点検しましたが、間違っているケースが多々ありました。私立大学・国公立大学の願書については学校がチェックすることはないので、それぞれがしっかり注意して記入しましょう。願書そのものも各自で取り寄せなければなりません。インターネット出願の大学も増えてきましたが、今日配布したテレメール等を使って早めにそろえましょう。

